

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300164		
法人名	医療法人 栄心会		
事業所名	さかえライフハート美術館通り（グループホーム）		
所在地	福島県郡山市字下館野11-1		
自己評価作成日	平成24年1月25日	評価結果市町村受理日	平成24年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成24年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは小規模多機能と併設しており、好きな時にいつでも行き来できるため、毎日の体操やレクリエーション等の他、週2回作業療法士のプログラムに参加していただきながら小規模多機能利用者とも交流を深めることができます。馴染みの関係作りができていますので、小規模多機能を利用しておられた方がグループホームに入居された場合にはスムーズに移動することができます。医療面においても、クリニックが母体となっているため、医師や看護師にいつでも相談できる体制がとられていますので、ご本人様はじめご家族様にも安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、開設2年半経過した事業所で昨年9月に管理者交代が行われ新体制の下、職員一丸となりサービス向上に向けた取組みが行われており、職員の気概が感じられる将来性のある事業所である。
2、より多くの家族等の意見や要望を聴取し運営に活かす為、利用者の居室に「意見・要望用紙」と筆記用具が備えてあり、活用されている。
3、園児による定期的事業所訪問が行われており、利用者は園児との交流を楽しみにしており、事業所も一緒に会食をする機会を設けるなど和やかな時間を過ごせるよう配慮している。
4、内科医、歯科医の往診と精神科医の受診、常勤の看護師の健康チェック、週2回の作業療法士の指導が受けられる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示しており、その目標に近づけるよう職員全員が一丸となって取り組んでいる。また、新人職員については、入社時に法人組織について及びグループホームの理念を伝えている。	事業所独自で作り上げた「地域の環の中で、充実した生活を心を込めて支援する」旨の理念を共有し実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアや近所の保育園等の協力を得て交流を持つことはできるようになった。今後も継続的に地域の方々との交流が図れるようにしていきたい。	町内会に法人が加入しており、秋祭りには「みこし」が立ち寄るなどの交流が始められている。また、事業所の「夏祭り」や「芋煮会」には、地区の園児や専門学校の学生、隣接する施設の利用者などの参加で行事が盛り上がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や面会にきた知人や友人の方から相談があった際には、その都度アドバイスをさせていただいている。その他、法人内グループとの連携を取りながら相談時には対応していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っており、事業運営の他、行事予定等を報告している。その際、委員から頂いた意見やアドバイスを活かし、サービス向上に努めている。	主な事業所の運営内容や予定を報告し、質疑内容や評価等の意見を運営に反映させている。今後は依り多くの意見交換が出来る様、議題を工夫する等して会議の実質活用を図ってゆく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時には市との連携は図れている。また、定期的に市介護相談員が来訪されており、取り組み状況等の報告・助言等をいただいている。今後も連携を取りながら、サービスの質の向上に努めたい。	介護保険に関する相談や、利用者の介護認定の更新の他、併設する小規模多機能の利用者の相談もあり月数回市役所を訪れ、情報の交換等を行ない協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながるような行為は行っていないが、日頃から提供するケア等について職員同士いつでも話せる環境作りに努めている。今後も身体拘束についての学べる機会を持ち、随時、研修参加をしていく。玄関の施錠はせずに、見守りで対応している。	職員は各自、研鑽を積み拘束の弊害を理解している。また、スピーチロック等にも注意を払い、日々身体拘束を行なわないケアを実践している。今後は事業所として職員の学べる機会を増やしてゆく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務の中で、虐待につながるような言葉づかいになっていないか、また行動として態度に出していないか等、常に職員一人一人が注意しながら意識してケアにあたっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学習している。現在、制度を必要とする方はいないが、必要時には活用できるように今後も学習・研修等への参加を行い、さらに理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の運営方針や取り組み等について説明し、ご家族様から不明な点や相談ごと等については納得していただけるまで説明を行い、理解を得た上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望書を各入居者様の居室に置き、気軽に書いていただけるようにしている。入居者やご家族様からの意見・要望等については、その都度職員で話し合い、すぐに対応できるようにしている。	利用者の食事内容に関する希望や意見を調理に反映させている他、家族の意見は面会時に表せるように、利用者の各居室に「意見・要望用紙」と鉛筆を備え付けている。「衣類の混入注意」などの意見があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや委員会会議を開催し、検討された事案等については、優先順位を踏まえ改善を行っている。その他、些細な疑問や意見に対してもいつでも相談できる体制が整っている。	毎月開催のミーティングや各種委員会（・行事、レクリエーション・食品、衛生・感染症対策・環境・事故対策）を通して職員の意見、要望、企画等を聞き取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援を行っている他、職員の能力等に合わせて段階に応じた法人独自のキャリアアップシステムを導入しており、職員一人一人が目標を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップシステム同様、個々の能力に応じた外部研修への参加を積極的に行っている。また、外部研修参加職員から内部研修として勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会へ加入しており、研修参加時には他事業所の職員と交流を図るよう努め情報交換・共有をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談依頼後は状況を確認するため、できるだけご自宅を訪問し、ご本人・家族と直接お話をする時間を設けるようにしている。また、見学を勧め納得してからサービスが開始できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様だけではなく、ご家族様が困っていることや不安な点については傾聴し、どのようなケアが提供できるか説明を行い、相談・確認し合いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が必要としている支援やご家族様の要望等を含め、サービス支援に添えられるように努めている。その時その時、必要となるサービスに柔軟に対応するため、事業所間の連携を行い、サービス提供を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を送っていく中で、日頃のコミュニケーションを大切にしており、時にはご本人様から教えて頂ける場面を作りながら、支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご本人様の最近の様子を報告している。また、遠方にいるご家族様で定期的な面会が難しい場合には電話連絡を行い、予定を確認しながらご本人と家族の交流が図れるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や教え子の面会時には、ゆっくり一緒に時間を過ごしていただけるように配慮している。継続的に面会へ来ていただけるような雰囲気作りを大切にして、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	友人・知人、教え子の訪問時の支援や行き付けの理・美容院の利用時の支援、初詣や公園の散歩などの馴染みの場所の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの状況や状態を把握し、意思を尊重しながら、その場面や状況に応じて交流できるよう、職員が介入して孤立しないような雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要がある時にはいつでも相談可能であることを伝えており、柔軟に対応できるよう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の日常的な行動や言動を観察し、一人ひとりの思いや希望を把握し、本人の立場に立ったケアに努めている。困難時には、ご家族様から情報を得て「本人らしさ」を考えながら検討し支援している。	利用者との日常の会話や、訴え、しぐさ、表情、家族からの情報を基に思いや意向を把握し、日常のケアや介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限りご本人様からお話を伺い、ご家族様面会時と同様に会話の中からエピソード等を伺い、職員間では生活歴や馴染みの暮らしぶり等の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録だけではなく、カンファレンスや連絡ノート・申し送り等を通じて入居者様の把握に努め、個人の心身状態に合わせて「できること」の支援と活動を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要関係者の意見を取り入れ、定期的にカンファレンスを行っている。全員が出席出来ない場合には、事前に課題等の意見を出してもらい、全員で検討できるようにして現状に即した計画の作成に努め、反映できるようにしている。	利用者・家族の思いに添ったケアプランをケース会議で全職員で検討し立案している。ケース記録も適切に行なわれている。モニタリングは短期目標の支援項目を一括して行なっているが、今後は項目毎にチェックしていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の見直しは定期的に行っている。入居者様の状態・変化が見られた時には職員全員が把握するように努め、話し合いのもとケアプランの変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるように、意見や要望等を把握し、他業種との連携が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター・民生員の他、地区の町内会長に参加していたいており、グループホームの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望を優先している。入居者様のほとんどが当法人のクリニックを受診しており、定期的な往診体制をとっている。他科受診時には受診援助を行い、経過報告等ご家族様や主治医に行っている。	法人の医療機関をかかりつけ医としている。受診は家族が対応しているが、状況によっては看護師が同行している。2週間に1回、内科医の往診、精神科医は月1回の受診と、必要に応じて歯科医の往診を受けている。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態変化時には、常勤の看護師に報告し、指示のもと対応している。日常的にも看護師からクリニックへの報告・相談を密に取っており、受診が必要な時には看護師が的確な情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人様の病状や日常生活の様子等、医療機関へ必要な情報提供をしている。退院時には、今後の方向性を含めた話し合いを行い、生活への支障が出ないように機関との関係づくりと連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時等には、ご家族様と主治医との話し合いを行い、終末期に向けた今後の対応・方針をお伝えしている。その方針については職員へ周知徹底を図り、チーム全体で支援するよう取り組んでいる。	入所時に「看取りに関する指針」を説明し了承を得ている。看取りに入る場合には医師が利用者または家族に判断内容を説明している。介護計画は、医師、看護師、介護職員、栄養士等が協働で作成し同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを職員へ配布し、またスタッフルームへの掲示をしている。外部研修への参加を継続的に行い、応急手当や初期対応の知識を深めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。避難方法や通報訓練、消火器の使い方の訓練を行っている。地域住民からの協力が得られるよう働きかけをしていく。	総合避難訓練は年2回消防署立会いの下、実施している。訓練の際の地域住民の協力は実現されていない。備蓄も昨年の大震災で、必要不可欠なものである事を認識しているが、行なわれていない。	防災訓練は規模の大小に拘らず数多く行い、災害時の対応を身に付ける必要がある。地域住民の協力も職員のみでの対応では限界があることから、早急の実現が望まれる。備蓄も同様である。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する尊厳の気持ちを忘れず、声かけの仕方や言葉使いに注意しながらの対応を心がけている。時には親しみを込めて家族のように話かけているが、配慮に欠けている時もあり、その都度職員同士で話し合いの場を設けている。	一人ひとりの利用者への尊厳の気持ちを忘れないように「時と場所」をわきまえながら、声掛けや言葉遣いに注意を払っている。親しみから出てしまう礼儀に欠けた言葉遣い等が見られた場合は、職員同士で注意を喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、その日の気分や体調に配慮し、一人ひとりタイミングを見計らいながら、出来るだけ自己決定できるよう、いくつかの選択肢を設けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活を送るうえで、日程は決められてはいるものの、食事・入浴・就寝時間等、一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、訪問理美容を希望に応じて利用をいただいている。時には化粧をしたり、希望時は職員がカラーを巻いたりとおしゃれすることを楽しんでいる。入浴時には着たい洋服を選んで頂き、自己選択をいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜の皮むきや切り方等、入居者様の状態や状況の応じて、出来る範囲のお手伝いを職員と一緒にいただいている。食材の購入時には、ご本人様に食材選びの声かけして、関心を持っていただけるよう支援している。	献立、食材は外部の宅配センターを利用している。食事の準備や後片付けは、利用者も職員と一緒にこなしている。一部、食事介助の必要な利用者も居るが、職員、利用者が調理の味の批評等を楽しみながら、和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者からの食材配送サービスにより、食事の提供をしている。メニューは栄養のバランスも良く、カロリー計算もされている。食事・水分摂取量の把握に努めており、その方に合った食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや促しを実施し、一人ひとりの状況に合わせた口腔ケアの支援を行っている。訪問歯科の往診体制も取っており、義歯調整等での依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン把握に努め、定時のトイレ声かけ・誘導をしている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう支援して、少しでもパットやオムツの使用を減らせるように努めている。	排泄パターンを記録により把握している。トイレ誘導の声掛けは利用者のプライドに配慮しながら適時に行ない、オムツやパットの使用が減らせる様に努めている。便秘対策には「薬」の使用は避けて牛乳・オリゴ糖などでコントロールしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分摂取量の把握を行い、体操や運動を促している。牛乳や繊維物の多く含んだ食物を提供し、なるべく薬に頼らないようにしているが、排便困難者には、下剤を使用し看護師による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせて入浴を実施しており、夜間帯の入浴にも応じている。体調面や身体状態によって入浴が困難な場合には、足浴や清拭を行い清潔保持に努めている。	入浴は週2回～3回となっている。浴槽のお湯は1回毎に張り替えられ清潔が保たれている。湯船は入浴剤や季節毎の趣向が凝らされている。脱衣所の壁には、1ヶ月分の利用者毎の入浴予定表と実績表が貼られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じ、休憩していただいたり、就寝時間のリズムを崩さないように支援している。眠れない時などには飲み物を提供して、会話をしたりしながら安心していただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを準備しており、処方内容や臨時の頓服薬の把握に努めている。処方の変更や追加がある場合には、看護師からの申し送りが徹底されており、職員へ周知できるよう連絡ノートにも記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の興味のあることやできることに取り組んでいただけるように支援している。洗濯たみや調理準備など職員と一緒にしながら、役割が持てるように努め、買い物への希望に応じて一緒に外出して気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、散歩など気分転換が図れるように支援している。また、外食する機会も設けており、ご家族様から美容室や外食への希望申し出があった際には一緒に外食に誘っていただいている。行事の一つとして、夏祭り等への参加をご家族様と一緒にできるよう働きかけをしている。	日常的には、事業所の周辺の散歩や近くのスーパーでの買い物等の支援をしている。また、外食やドライブ(空港見学、温泉地の足湯など)での気分転換も図られている。その他、家族と戸外で過ごす行事、花火大会や芋煮会、流しそうめんなども行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中には個人でお金を管理をしている方がおり、買い物希望時には一緒に出かけ、状況に応じて支払いの代行を行い支援している。現金を所持していない方については、食材買い出し時等にお金を使って支払いできる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話することができることを伝えている。電話使用の訴えがあった際には、プライバシーに配慮しながら家族や知人への取り次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には、レクリエーションで作成したものや市高齢者作品展へ出品した壁画、習字等を掲示している。また、温度・湿度等に気をつけ、季節の花を飾ったりして、季節感が感じられるような工夫に努めている。	共用空間の廊下・リビングは、天窓からの光で明るい。リビングは温、湿度がエアコンと加湿器でコントロールされている。壁には利用者が高齢者作品展に出品した作品や、作業療法士のプログラムに参加し作った貼り絵等が飾られている。利用者はソファやテーブルで思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時には、自由に席を移られたり、気の合う入居者と一緒にソファへ座って会話を楽しまれたり、テレビを観て過ごしている。入居者が思い思いに使用できるようにソファをもう一つ増やし、状況に合わせて工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各居室にはご家族様の協力を得て、ソファやタンス、机等を持ってきていただいている。使い慣れた家具等は少ないが、ご家族との思い出の写真等を持参され、いつも見られるように写真立てを使用したり、壁にかけたりして一人ひとりの居室が個性的なものとなっている。	居室には、エアコン・ベット・整理タンスが備え付けられている。レイアウトは各人が居心地良く暮らせるように工夫されている。壁面には家族の写真や書が飾られている。中には応接セットやテレビを持ち込み、何時でも、誰とでもゆっくり会話が出来る居住空間を作っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、居室内にセンサーライトを準備したり、自室が分からない方の居室には目印を付けるなどして一人ひとりの状態に合わせた環境作りに努めている。		